

「倒幕」だけで語れないのが 防長二州の幕末史

幕末期の長州藩について、
下関市立長府博物館学芸員
古城春樹さんにお話をお聞きました。



下関市立長府博物館 学芸員 古城春樹さん

「幕末」という名の、何が正義だったのかわからなかった時代、ここ防長二州においても様々な意見が飛び交いました。二転三転する萩藩の方針。長府・徳山・清末各支藩や吉川家などの対萩・対幕・対外意識。そこに奇兵隊を始めとする諸隊の各方針も影響して、幕末の長州は非常に複雑でした。よく「長州藩」と一括りにされますが、実は一つではなかったということです。

■支藩は全て萩藩の命令に従ったのではないのですか？

例えば支藩の1つである長府藩では、萩藩の方針が、尊皇・佐幕、攘夷・開国と、その何れに傾いても全てに盲従する一派と、萩藩には、協力しても盲従はしないという考えを持つ一派とに分かれていたようですね。後者は尊皇意識が頗る高かったのですが、萩藩の「分家」ではなく、「別家」だという意識もまた強くて、萩藩の幕府恭順方針に従わないだけでなく、萩藩や同藩士の権威主義や理不尽にも、悉く抵抗していますね。その理由については、江戸時代より前の時代から勉強しないといけませんけど…

■諸隊でも意見が分かれていたんですか？

一つの隊の中でも、意見の相違はあったようですね。例えば、高杉晋作の決起に、力士隊士が与していますが、逆に萩藩の幕府恭順派政府に従う力士隊士もいて、彼らは大田・絵堂の戦いで先鋒を務め、高杉等と戦ったようです。

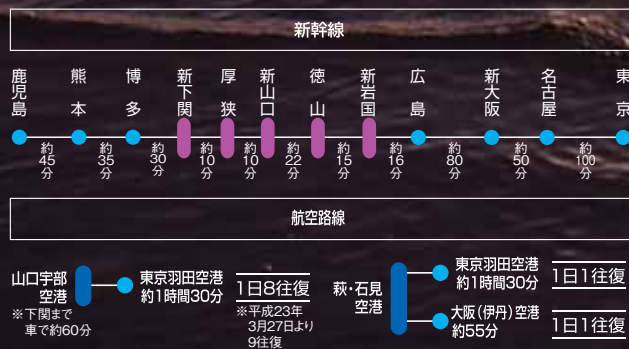
■人の数ほど複雑だったということですか？

それぞれの信条に基づいた正義と手法があったということでしょうね。その一つ一つに、幕末の防長二州を語る上で、重要な何かが隠されているような気がしますね。

表紙の人物画

手前から高杉晋作、二列目左から久坂玄瑞・木戸孝允、三列目左から伊藤博文・毛利敬親・山縣有朋、四列目 前原一誠

■交通のご案内



〒750-8513 山口県下関市南部町21-19

下関商工会議所

TEL083-222-3333

FAX083-222-4094

<http://www.shimonoseki.cci.or.jp>

山口 を歩く

維新胎動の地、

藩論は倒幕だけではなかった。

激動の幕末、藩論は割れ、多くの悲しい出来事もありました。
知られざる幕末長州の地を歩いてみませんか。

企画／下関商工会議所

